



「地域レポーター」が参加する初のイベント 「そうかりノベーションまちづくり見学ツアー」 を実施しました！

〔報告：埼玉縣信用金庫 地域プロデューサー〕

「信用金庫の広域連携による圏央道沿線地域の 『地域資源』『地域産品』の発掘・発信プロジェクト」

「わがまち基金」を活用した個別事業の第一号として、2020年1月24日に「そうかりノベーションまちづくり見学ツアー」を開催しました。

「そうかりノベーションまちづくり」は、コンセプトが明確な個々の店舗の開業および空き店舗の解消が、エリア全体の価値を上げたまちづくり事例として全国的にも注目されています。このような事例を学ぶことは、営業エリアの活性化、にぎわい創出を目指す各信用金庫にとっても有益であるとの考えから、草加市協力のもと実現しました。

また「わがまち基金」において、5つの信用金庫は地域資源を発掘・発信する担い手である「地域レポーター」を任命することとしておりますが、本ツアーは当金庫の地域レポーター8名が参加する初のイベントとなりました。併せて他信用金庫の本支店の職員や自治体、関東経済産業局の職員など、総勢約50名の参加する一大イベントとなりました。



【当金庫地域レポーターと事務局】

(蔵カフェ中屋にて)

基調講演

ツアーに先立ち、そうかりノベーションまちづくりの取組みを全国的に知らしめた立役者である草加市自治文化部産業振興課の高橋課長より「そうかりノベーションまちづくりについて」と題する基調講演が行われました。

まず、草加市がリノベーションまちづくりに取り組むに至った経緯について、「税込・地方交付税が減少し、歳出は増加するなか、公共施設の維持管理・更新費は増大し、人口（特に生産年齢人口）の減少、扶助費（医療・介護）の増加、市街地の衰退・空き家増大、雇用の喪失、コミュニティの衰退などの問題に対応するのは行政だけでは不可能になっている」とのお話がありました。そのうえで、リノベーションまちづくりに取り組んだ成果として、「リノベーションスクールを通じて個性あるカフェやレストランなどが次々とオープンしていることがこのまちの魅力を高めており、アパートの家賃が下げ止まるといった経済的効果も表れている」ことが紹介されました。



【アターブル】



【おーぐぱん】

※ 各店舗について

- ① スバル：第1回リノベーションスクールから事業化。18年も閉店していたままとっていた寿司店のカウンターを活かしたバル（飲食ができる居酒屋）。「まちを照らす提灯のような場所」を目指す。草加市内のオーガニック農家から仕入れた野菜も評判。
- ② soso park：草加市が所有する、道路拡幅によって細長くなってしまった土地を活用したコミュニティパーク。運営は地元のカフェ経営者や農家など。2件のカフェが常時営業するほか、イベント時にも活用。
- ③ アターブル：空き家をリノベーション。都内のホテルで修業したシェフが「子どもたちに思い出の味を」をコンセプトに開業した洋食屋。3日間かけて作る濃厚なデミグラスソースがかかったハンバーグや王道のオムライスが人気。仕込み風景を敢えて子どもたちに見せる店舗の構造も特徴。
- ④ おーぐぱん：第3回リノベーションスクール案件。建物オーナーの意向を踏まえ、まちのコミュニティの拠点をを目指す。開業間もないが、カレーパンやあんぱんが大人気。

トークセッション

まちあるき見学ツアーの後、「シェアアトリエつなぐば」（草加市八幡町）にてトークセッションが行われました。まちづくりの実践者たちにより、取組内容や事業への思いなどが紹介されました。

- ① 株式会社デージーフレッシュ 代表取締役 中山 拓郎 氏
 - 命をつなぐ基礎である「食」をつくるのが農業である。相続により土地を引き継ぎ、農業に従事したが、先祖のすねかじりではなくゼロからマーケットを作りたいと考え、農家レストラン Chavi Pelto を始めた。都心から30分、駅から5分の立地にてオーガニックの農場とレストランを運営。生産した野菜を自ら販売するほか、リノベーションスクール卒業生のレストラン等にも販売、地産地消となっている。
 - 「野菜の本当のおいしさを知ってもらいたい」「生態系と環境循環を取り戻す」「オーガニック野菜の価値観を逆転させる」「都市農業の大切さを知ってもらいたい」という理念を持って活動。食材からエリアの価値を変えたいと考えている。オーガニック食材や顔の見える食材が身近にあることで、無意識にまちの人々の目線と考え方は変化する。顔の見える緩やかな経済圏を作り上げることで、エリアの価値は真に変化する。
 - 金融機関には「不動産と畑はワンパッケージである」ということを理解してもらいたい。アパートにだけ価値があるのではない。

② 株式会社アオイエ CEO 白田 和裕 氏

- 草加市生まれ、結婚して熊谷に居住。熊谷の星川通りを何とかしたいと考えていたところ、「第 2 回リノベーションスクール@そうか」を知り、受講生として参加。築 52 年の木賃アパートを「アオイエ」として改装。「料理教室を通じてヒトとヒトがつながる」「飲食店主が講師となりヒトとまちがつながる」ことを目指した“まちのダイニングキッチン”がコンセプト。各種イベント（味噌造り、包丁研ぎ、おせち料理作り、イタリアン、そば打ち、燗酒の会、麺づくりサークル、芋煮会等）も実施。リノベーションスクール卒業生との協力により「スバル」による料理教室を開催。
- 核家族化により家族だけでは解決できない課題が、他人と近くになることによって解決できることもある。コミュニティのあるまちが愛着がわくまちである。幸せそうに生きることにより、面白い選択肢が生まれ、人が来るようになる。
- 熊谷では原口商店の空き店舗をフリースペースとして借り上げ。自動販売機だけが置いてあった酒屋の空き店舗に、自動販売機の収益相当の賃料を支払い、うどん店、ライブ、お祭り時の休憩スペース・コーヒーショップ等に活用。
- 不動産プロデュースという新たな建築士としての働き方を、リスク覚悟で実践している。金融機関には事業者寄り添ってリスクを共有してもらいたい。



【キッチンスタジオ アオイエ】



【シェアアトリエ つなぐば】

③ つなぐば家守舎株式会社 代表取締役 小嶋 直 氏

取締役 松村 実乃里 氏

- 「第 1 回リノベーションスクール@そうか」に受講生として参加。当時の草加は何もない場所であったが「ほしい暮らしは私たちで作る」をコンセプトに月 3 万円ビジネス（3 ビズ）の実践の場を作ることを目指した。東京でデザイナーとして働いていたが、結婚して草加に居住するようになってから仕事上の人的つながりがなくなり、広がりを作りたいと考えていた。都内で働いていたスキルのある同様の女性がたくさんいることも分かり、リノベーションスクールでコンセプトを検討した。コンセプトは①仕事につながる、②母親とつながる、③地域につながる、の 3 つ。
- 事業開始にあたっては様々な工夫をした。解体・断熱・左官等はワークショップにより地域の人々などと自ら実践。ウッドデッキを作る際にはクラウドファンディン

グを活用。当初は1階だけをオープン。カフェ（自ら運営）、アトリエ（ごはん・菓子：レンタルキッチンとして売上高の一部をつなぐばが受領）、アトリエ（ショップ・テーブル：スペースの利用料としてつなぐばが受領）が当初の事業内容。つなぐばを利用する人たちは「住人」と呼んでいるが、オープン当初は住人から不満が出され、1ヶ月で「つなぐばやめます」という人が出てきた。しかしながら住人の企画「つなぐBar」「スイーツDAY」「映画会」「綿花からの糸紡ぎ」といったイベントを重ねるうち一体感が出てきた。現在は60人が利用。多様性がつなぐばの特徴となっている。2階部分は、昨年6月に美容室、今年1月に建築事務所をオープン（小嶋氏）した。今春にはおもちゃ美術館と託児室がオープンする。

参加者からの声

参加したさいしん地域レポーターからは「まちづくりは行政、金融、事業者が一体となることが大切である」「事業者どうしのつながりを知ることができた」「事例を地元に戻元したい」「事業者の想いを知ることができた」「当事者意識が必要であると感じた」といった前向きな声が寄せられました。他金庫の参加者からも総じて前向きな感想が多く寄せられました。

以上